



生き方の研究

森本哲郎著

PHP 研究所 2004 (PHP 文庫)

所蔵館 請求記号

生田分館：X/080/P56/Mor

神田分館：/159/Mo55

生き方の研究

森本哲郎著

新潮社 1987 (新潮選書)

続 生き方の研究

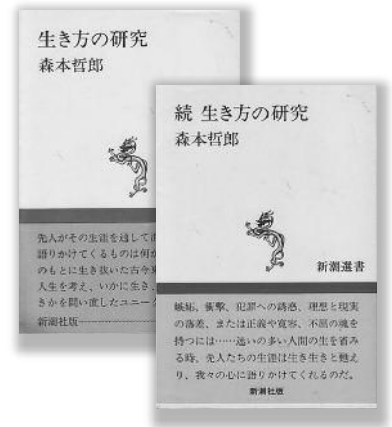
森本哲郎

新潮社 1989 (新潮選書)

所蔵館 請求記号

本 館：K/159/Mo55

神田分館：/159/Mo55



【著者プロフィール】

森本哲郎 (もりもと てつろう)

[1925-2014]

日本の文明批評の第一人者

新聞記者やフリーの批評家として活躍

手嶋 宣之 (商学部教授)

あらゆる人生は、生に始まり死で終わる。しかし、その間の「生き方」は、誰一人として同じではない。すべての人が幾度となく分かれ道に立ち、悩みもがいて選択した足跡が、その人の「生き方」となる。のちに偉人と言われるようになった人も例外ではない。悩んだ末に、何かを選び何かを捨てて生き抜いたのである。

現代社会では、働き方や家族のあり方が多様になり、以前にも増していろいろな「生き方」が可能になった。これはまた、分かれ道の数や悩みの種も増えたことを意味する。このような時代に生きるわれわれにとって、幾人かの先人が、分かれ道を前に、どのような「生き方」を選んだのか追体験してみることは非常に有意義であろう。

本書は39名の有名な人物（うち3名は架空の人物）が、どのような状況の中で、その「生き方」を選んだのかを浮き彫りにする。あまたの史料を

渉猟した著者に導かれて、それぞれの人物の苦悩と選択を理解するだけでも十分に価値がある。さらには、もし、この39名の中に心が揺さぶられる人物がいたならば、それは、読者自身が自分の欲している「生き方」に気づいたのだとも言える。このようにして自分が共感できる「生き方」を発見できれば、将来、分かれ道に立って選択を迫られた時に、大きな頼りとなるに違いない。

本書が最初に単行本化された新潮選書では、19名の生き方を論じた正（1987年刊）と20名の生き方を論じた続（1989年刊）の2分冊として出版された。その後2004年にPHP研究所から2冊を合本した文庫版が出ており、新潮選書版、PHP文庫版とも本学の図書館に所蔵されている。

他方、何度も読み返したい本だと思ふなら、インターネットで中古本を安く手に入れるという選択も今では可能である。